

令和5年度第1回 高砂市文化振興審議会

公開用

日 時 令和5年8月31日(木) 18:00～
場 所 高砂市役所南庁舎2階 会議室2

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	渡邊 紀子
	副 会 長	藤村 清春	委 員	高橋 賢吉
	委 員	岩見 一美	委 員	加茂 朋之
	委 員	天野 富美男	委 員	中野 哲郎

欠席委員	委 員	松下 尚平	委 員	松本 光弘
------	-----	-------	-----	-------

出席事務局職員

健康こども部長	藤田 将太郎
健康こども部健康文化室参事	三浦 一郎
教育部教育推進室長	福本 典子
教育部学校教育室長	矢野 仁之
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課長	井村 欽也
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課主幹	西村 直巳
文化スポーツ課職員	外3名

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
 - (1) 令和4年度事業結果について
 - (2) 令和5年度事業計画について
- 4 そ の 他
 - (1) 今後のスケジュール
- 5 閉 会

○司会

皆さんこんばんは、令和5年度第1回文化振興審議会を開催する前に、まず、配布資料の確認をいたします。

本日配布させていただきました資料が、委員席次表、会議次第、審議会委員名簿、謡曲「高砂」の詞章、(資料1)令和4年度事業結果、(資料2)令和5年度実施計画書、(資料3)各委員からの意見・質問一覧表、第2次高砂市文化振興基本方針(冊子)、第2次高砂市文化振興基本方針(概要版)以上となっております。皆さまお揃いでしょうか。

それでは、オープニングといたしまして、謡曲「高砂」全員合唱を行いたいと思います。お手元の配布資料に謡曲「高砂」の詞章がありますので、ご覧ください。全員ご起立願います。

(謡曲「高砂」合唱)

○司会

ありがとうございました、ご着席ください。ただ今より令和5年度第1回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいており、本日傍聴希望者は1名でございます。

当審議会の開催にあたりまして都倉市長より挨拶を申し上げます。

○市長

皆さんこんばんは。

本日は公私ともお忙しい中、高砂市文化振興審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。

平素から本市の文化行政をはじめ、市政全般にわたりましてご理解ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本審議会におきましては終始熱心にご審議を賜り、市の文化興隆のために貴重なご意見をいただいておりますことに、重ねてお礼申し上げます。

さて、本市では、平成23年に高砂市文化振興条例を制定し、平成25年に策定いたしました高砂市文化振興基本方針に示す、文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち高砂の実現を目指し、10年にわたり様々な施策を進めて参りました。

この間、高砂文化教室「高砂学」の開催や高砂市美術展の再開など、積極的に文化事業を展開して参りました。

また、条例方針に象徴する謡曲「高砂」の伝承にも注力し、現在では幼児期から児童期の教育の一部として定着しております。

令和5年3月には文化の力を多面的に発揮するため、国においても、法令の改正や制定がなされていることを背景に、第2次高砂市文化振興基本方針を策定いたしました。

方針策定にあたりましては委員の皆様には多大なご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

つむぎ つながり つくりだす 文化と共に育つまち 高砂の実現に向け、文化振興によるまちづくり施策を推進して参ります。

また新型コロナウイルスの影響も落ち着き、文化活動は活発になって参りました。

本市といたしましては、引き続き、文化振興のため、支援して参りますので今後とものご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は第2次高砂市文化振興基本方針の進捗状況と、実施計画についてご審議をいただく予定でございます。

委員の皆様のご活発なご議論をお願い申し上げます、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会

ありがとうございました。

次に会長よりご挨拶をお願いします。

○会長

先ほど市長の方からごあいさついただきましたが、現在第2次高砂市文化振興基本方針実施計画に基づいて、事業を推進しております。

改めて事業内容、それから委員の皆様にも事前にご意見等をお伺いしました。

興味深いなと思ったのは、文化という軸で市の事業を見ますと、こういう課題があるのか、こういう問題点があるのかということが改めてわかったというところでございます。

どうしても行政という縦割りの部分は避けられないところがあって、部局ごとでは完結して行くのですが、ある意味文化という横串を刺すことで、問題が見えてくるのではないかとということも気付かせていただきました。

そういう意味で今日も、これだけいろんな多様な皆様にお集まりいただいておりますので、様々な観点から、いろいろご意見を賜って、よりよい文化振興施策を高砂市から発信していきたいというふうに思っております。どうぞご協力よろしくをお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。

次に、委員の変更について説明させていただきます。

任期途中ではございますが、高砂市連合理事会の改選により、委員から新しく委員に委員となつていただいております。委員より自己紹介をお願いします。

○委員

この4月から高砂市連合自治会の常時理事になりました。

そのあと委員のあとを引き継いで委員となりました。よろしくをお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。

ここで市長は他の公務のため退席されます。

(市長退席)

(職員紹介)

○司会

本日、委員、委員より欠席の申し出がありました。本日の会議は、出席者8名、出席者2名より、審議会規則第五条第2項の規定により、過半数が出席されているため、会議が成立することをご報告いたします。

今後の進行につきましては、審議会規則第五条第1項により、会長にお譲りしたいと思います。よろしくお願ひです。

○会長

それではこれから次第に沿って進めて参りたいと思います、よろしくお願ひいたします。

最初に、議題の一番でございます。令和4年度事業結果について、事務局の方からご説明よろしくお願ひいたします。

○事務局

事務局でございます。

それでは令和4年度の事業結果につきまして、ご説明をさせていただきます。

(資料1)「令和4年度事業結果」をご参照ください。

令和4年度事業結果について施策番号順に提示しております。全192項目のうち、S評価

が4項目、A評価が144項目、B評価が9項目、C評価が7項目、事業が終了したものや、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった事業など、評価なしが28項目でございます。

それでは、主なものを1ページから順番にご説明いたします。

まず、1ページ、1番、高砂学ですが、令和4年度は、活動編5回、講座編1回、寺子屋編1回、謡曲編4回を実施しました。講座編は「21才で癌になった経営者」をテーマに株式会社匠工芸に講義を行っていただきました。高砂市内の企業に協力いただき、高砂の文化について学ぶ機会となりました。内容につきましては、YouTubeに掲載しております。

次に、8ページから9ページ、41番から46番にかけては、市の各担当課が実施しております事業に係るポスターの募集と、その結果です。

続いて、10ページ、53番、及び54番、高砂市国際交流協会が実施したトライやるウィーク、子どもインターナショナルデイキャンプにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなったことから、事業が実施されS評価となっております。

なお、S評価につきましては、他に33ページ、173番の日本語教室、174番の語学講座の2項目でございます。

資料を戻っていただきまして、12ページの63番及び64番、エコクリーンピアはりまの施設見学、環境学習リサイクル講座につきましては、昨年度から稼働しております、エコクリーンピアはりまの見学やリサイクル講座をとおして、ごみの減量や環境問題について考える機会を提供しております。

次に、19ページ、95番、文化まつり事業ですが、文化連盟ロゴマークを公募し、決定いたしました。

今年度から、文化まつり事業や、文化連盟活動等のPRに活用しております。

また、施設の整備につきましては、30ページ、158番の文化会館・文化保健センターにおいて、指定管理者の小修繕に加え、文化会館大ホールの舞台照明調光器盤の更新を実施しました。

令和4年度の各種事業につきましては、令和2年度から令和3年度に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症から徐々に回復してきているという状況でございます。

簡単ですが、説明は以上でございます。

よろしく願いいたします。

○会長

どうもありがとうございました。

ただいまご説明いただきました、こちらの件につきましてご意見ご質問をいただきたいと思っております。

皆様には事前に資料を送付いたしまして、各委員からのご意見、ご質問いただいております。これにご回答をつけているものを今、お手元の方にお配り、直前にメールでも送らせていただきました。

委員、委員からご意見をいただいております。まずは、委員、ご質問に対するご回答など見られて、何かご質問あるいはご意見があればお伺いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

○委員

実際にここに書かれているように、「各事業結果を基本施策に紐づけし、未来に繋がるよう、当課でまとめた結果の全体共有を検討してまいります。」ということで、検討ではなく実際に実施していただきたいと思っております。せっかくこれだけ時間かけていろいろ話し合ってるのですから、フィードバックしていただいて、よりよいものになればいいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

引き続きまして委員からも、複数ご意見ご質問を賜っております。委員の方ではいかがでございますでしょうか。ご回答等見られて何か追加のご質問等ございましたらお願いいたします。

○委員

本当にいろんな意見を挙げさせていただいたのですが、よいご回答をいただけたと思っております。食事スペースなどに関しましても、ちょっと大変かなと思っておりましたけれども、いろいろご意見いただきましたので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

事前にご質問いただいた件につきましてはご回答を賜り、今、各委員からのご回答である程度納得されたということです。一部委員からフィードバックのことを、注文がついたわけで、これはぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

そうしましたら他の委員の方も含めそれぞれご質問、ご意見があればお願ひいたします。

できればページ番号と、通し番号の形でおっしゃっていただきますと助かります。

委員お願ひします。

○委員

まず、94番、19ページ。

高砂市美術展のところですけども、「文化作品を発表する場と鑑賞する機会を設ける。」とあります。文化作品っていう表現は、どうなのかなと思つたんです。別のところでは美術作品になってましたよね。この表現が気になりました。

それと二つ目、さきほどのポスターの件ですけど、41番、8ページです。火災予防の防火ポスターが、10点に満たなかったところがあったのでB評価になったということですが、少なかつた理由はわかりますか。

○会長

それでは今の委員からのご質問について、まず1点目は、文化作品という表現について、2点目が、防火ポスターの少なかつた理由ですね。よろしくお願ひいたします。

○事務局

事務局でございます。

94番、確におっしゃる通り美術作品というのが、正しい表現かと思ひます。

○委員

後ろの方のページで、そこは美術作品というふうな表現になってなつてたように思ひます。

今説明していただくときに、一緒に見ながら後ろの方のページで美術展について触れているところには、美術作品というような表現がしてあつたように思ひます。文化作品という表現は多分ないと思ひるので、いかがでしょうか。

○事務局

美術作品に修正いたします。

○会長

では、修正のほうよろしくお願ひします。2点目のポスターの点数が少なかつた理由というのは、お願ひいたします。

○事務局

正直、原因はこうです、というのは今私もわからないです。ただ、予想される原因ですけど、やはり夏休みの宿題等で募集してござりまして、いろいろあるんですね。防火ポスターですとか、下水道のポスター等、他の絵画とかで、10点に満たなかつた。正直少子化ということも

ありましてですね、1 学年 40 人にいかないというようなことも出てきておりますので、10 点がちょっと集まりきらなかったと推測されます。

○委員

そうだと思います。僕も現場にいましたからわかるんですけどこれもたくさん募集が来ます。その中で子供たちに何を描かそうかなっていう、僕の場合もできるだけ子供たちが実際に身近に感じるテーマ、そういうのをやるようにしてたんですけど、花と緑が一番描きやすいですよ。そこで前もじょうとんバスの話が出た時にお願したんですよ。子供たちが描きやすい環境を、こっちの方も作ってやるっていうのが大事じゃないかなと。それと、指導する教師の側にしても指導しやすい環境を作ってやるということが大事じゃないかなっていうのが自分も現場におりましてそう思ったんです。

例えばこれを描きなさいって言われても、子供たちが身近に感じないテーマ、例えば税金などもそうですよね。花と緑や、動物愛護、そういうものであれば子供たち、動物好きですし、花と緑だって花を描けばいいだろうとわかります。やっぱり子供たちが描きやすい環境を作るとか、資料をこちらから提供してやるということは随分大事だと思っています。

僕の経験でも非常にありがたかったのは、これ相当前なんですけども下水道のポスターの依頼が来たときに、下水道の担当の方が、下水道はこういう働きですよというのを、資料につけてくださったことがあるんですね。上水道のことは見学してわかっている、下水道っていうのが、実際わかりにくかったんだと思うんですが、そういう目に見える資料をいただいたというのは随分役立って、私も子供たちに指導する時にそれを使ってさせていただいたんです。やっぱり募集が来たからこれを描きなさいじゃなく、本当にいい作品を作らせる、それで子供たちに考えさせるためには描きやすい環境を作っているというのが大事じゃないかなと思いますので、やっぱりその辺のことも考えていただけたらなと思います。

○会長

委員ありがとうございました。委員、じょうとんバスのことですかね。

○委員

94 番の評価説明ですけれども、来場者が目標を下回ったが、優れた芸術作品に触れる機会を提供できたということですが、やはりこの市展というのは他市とあまり比較しないんですよ。すごく優秀な市と比較していないので、自分の市だけをいい目線で見ないほうがいいと思うんですね。ですから、そこら辺のところを市民の皆様の文化レベルを上げるためにも、よその市と比較しながらこれからも応援していきたいとか、そういう評価も一言加えていただけたら、これはちゃんとよその市も見てらっしゃるんだなということもわかると思います。

よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

委員がおっしゃった評価の基準ですよ。どうしても行政側の事業ですと人数とか数値化しやすいものになります。一方で先ほどおっしゃった、優れているとか、他と比べてどうかというのはなかなか評価しづらいところかと思っています。

ただ、文化芸術は美術も含めてそういったものが、本当に市民のためになるかどうか、意外にそのあたりの感性の評価も実は重要ではないかというのは、確かにご指摘にあって初めて私も感じたところではございます。

アンケートでは、皆さんもご承知のように、この平成 26 年から始まったときから比べて、実を言うとそれほど文化に親しんでいるという結果が出てきていないという残念な結果になっています。ただ、市長も先ほどおっしゃったようにいろんな仕掛けはしてるんですね。その仕掛けが人数だけで評価してしまうと、もしかすると、なぜ上がってこないんだろうかという説明がつかないかもしれませんが、おっしゃっていただいたような質的評価というものも考えていくともしかすると、アンケートの結果の説明ができるのかなと今、委員のお話を聞きながら感じました。ありがとうございました。

○委員

それに関して質問があります。

確かにコロナ等の影響もありまして入場者数は、少なかったかもしれません。それともう一つ今私が美術展で考えているのは、鑑賞者の質を上げていくというのは高砂市の文化レベルを上げていくのに大事だと思うんです。

例としまして、高砂市美術展はロビーコンサートを写真の展示会場でやってるんです。その時に、ロビーコンサートをやってるにもかかわらず、写真を見に来た人が大きな声でしゃべりながら作品を見ていました。普通常識では考えられないですね、それを平気でやってる。それを見ながらやってる側としてもショックを受けました。本当の文化レベルはどうなんだという問題なんです。

それとよく似たような形で、ロビーコンサートをやっていて、いつ終わるんですか、どうして写真を見られないんですか、と言う人がいます。これが本当に文化スポーツ課の方々には随分ご迷惑かけたと思うんですけど、それを見ながら、一体文化のレベルってどうなんだろうというふうに思ったんです。ロビーコンサートをやっていただいているのも、ただ美術展だけじゃなくこの美術展を一つの核として、何か高砂の文化を発信できる場を提供できればいいなと思います。だから、ロビーコンサートも、理想を言えば高砂在住の若い音楽家の方々に、ギャラは出せないけど発表する一つの場を提供したい。そこを一つのステップにして次のステップに進んでいっていただければいいなという考えのもとにやっています。たくさん来ていただけるのも、もちろんいいですけど見に来ての方のレベルを上げていく。大きな言い方しましたが、やっぱりそういうのも大事じゃないかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございました。

今、委員からご意見ございましたが、もし何か先ほどの委員のご意見と合わせて、何か方針、事務局側でお考えがあればお聞きいたします。もしなければ、この意見というのは意見としてお伺いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○副会長

ロビーコンサートを美術展に合わせてされているのは、素晴らしいと思います。

高砂市役所が、新築になりました。分庁舎の素晴らしいホールがあるので、文化スポーツ課とも相談しながら、来年3月までは企画でホールコンサートをやらせてもらっています。7月は演奏連盟の方が出てくださいって、実は3月まで全部埋まってしまったんですよ。毎月1回、昼休みに12時10分から30分間から40分間ということですけど、それによって、高砂市役所が文化発信するところ、高砂市役所にも皆さん親しんでほしい、そういう格好で今取り組んでいます。

4月からは公募して、ずっと毎月やっていくのは決まったとお聞きしてます。市役所も文化発信の地として、加古川市の方はもうすでに300回やったと言ってましたけど、100回300回、500回という風に続いたらいいかなと思っています。3月までは尽力させていただきますのでまたよろしくお願ひします。報告までです。

○会長

ありがとうございました。

まず、委員がおっしゃったことは、一つは、やはりそういう機会をたくさんつくることで、委員がおっしゃった、鑑賞する側のマナーを向上させていくということが一つあるかと思ひます。そういうことでよろしいですか。

○副会長

はい。

○会長

委員お願いします。

○委員

このたび初めてそういうことを以前からずっとお願いしてたんですけども、市役所内で演奏させていただくことができました。7月3日ですね、本当に私が驚くほどすごい反響が良くてたくさんの方に来ていただいたんです。最初は椅子を並べないとおっしゃっていたんですけど、並べていただいて、それでも全然足りなくて次から次に市の方にお手数おかけして、椅子を並べていただくような状態で立ち見、それから扉を開けて外にも聞いてくださる方がたくさん出ました。こんなに聞きに来てくれるのかというのは、逆に本当にびっくりしたんですね。

私、ピアノ弾きとしては、実際に生のピアノがあってくれれば、もっといい音楽、もっといいサウンドを聞いていただけるのと思うのが本当に残念ですけど、ロビーコンサートのために電子ピアノも購入したんですけどね。でも、喜んでいただけるのだというのは本当にびっくりしました。

それまでは、踊りの会とか太鼓の会とか行かせていただいたんですが、やっぱりおばちゃんたちがよくしゃべるんですよ。でも、コンサートでしゃべられるのは本当に頭に来るんですね、何のために来てるんだと。おばあちゃんたちになってもコミュニケーションを持つ場と間違えている感じで、しゃべるんだったら出て行って欲しいなと思っても、つつい静かにしてくださいと声をかけるような状況ですが、それとともに、そこら辺は主催者の方も努力しながら、とにかく来てくださる。

市民の方が音楽とか美術とか、いいものに触れたい欲求があるということは非常に将来的にこれから我々が頑張っていけないといけないという励みと勇気をいただけて、それこそ今、副会長おっしゃいましたけれども、来年3月まで埋まると。だからそこらあたりを市民、市の方方で作り上げていく。

私自身も今までエネルギーがあったのかもしれないし、市民の欲求があったのかもしれないですが、何かようやく形になってきてくれたと感じています。

やっぱりしゃべる方はいて、それは仕方ないと思うんですけど、やっぱりある程度、数も大事、中身を上げていく努力も大事だと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

○副会長

8月、9月は広報に間に合わなかったんですけども、これからすでもう3月まで埋まっていますので、広報に間に合うように提出させてもらってますので、またたくさん来られると思います。

8月は63名、9月は広報が間に合わなかったんですけど、それなりに来ていただきたいと思っています。

○委員

7月は大体100名ぐらい来られていましたね。

○副会長

7月は、アンケートは100名近く集まったんですが、食堂もどなたかドアを開けてくださって、食べている人も聞いているような状態でした。委員も言われましたが、演奏している時はやっぱり聞いている。出入りの動く音はありましたけれど、雑談してる感じじゃなかったですね。

本当は、私はもっと若手を登用していきたいと思っています。いい音楽を市民に、市役所で親しんでもらいたい、そんなことはぜひ続けていきたいなと思います。

○委員

今度の9月10日のコンサートですけど、実際のところ、高砂市以外の方がたくさん出てく

ださるんですね。もちろん松陽高校の子たち、頑張ってくれてくれるんですが、高砂市の中でそういう子たちを育てていく、演奏できる子たち、頑張ってくれて盛り上げていこうとする子たちを育てていくというのも私たちの役目かなというふうに思っております。高砂市民で音楽会ができるんだったら嬉しいなといったところです。

○会長

委員、副会長ありがとうございました。

最後におっしゃっていただいたように、人材を育てていくということも重要な振興方針にありますので、ぜひともまたご意見賜ればと思います。ありがとうございました。

他いかがでしょうか何かご質問ご意見があれば、お願いをいたします。委員お願いします。

○副会長

実は、1ページの1-1-1高砂学ですが、私も何回か参加させてもらって、もちろん素晴らしい取り組みをされているし、若い人たちが高砂のことをどんどん調べていっています。同時にその成果実績等にも、高砂の偉人や歴史等について幅広く知ってもらうことができたとありますが、もう少し一般の人が高砂学に来れるように、90分一話完結で、工楽松右衛門、宮本武蔵とか、そういう人物を10人ぐらい取り上げて、もう少し、細かく入るんじゃなく偉人として取り上げて高砂をPRできたらと一つ思いました。それが1点目です。

2点目なんですけども30ページ、158番、事務局からも説明してくれた、高砂市文化会館のじょうとんばホールですけれども、あそこで録音しようと思ったら、今でもMDでしかないんですよ。我々11月に市民音楽祭やるんですけども、それを録音します。ところが、その録音には人の声が入るんです。実際に最終的なバージョンは、録音してもらったMDと、その動画を当て込んで、雑音や人の声が入らない音を作っています。ところが、MDなんて今はない状態です。CDで録音できるような形にしてもらえないかなと思ってます。以上2点です。

○会長

ありがとうございました。

今、副会長がおっしゃった、後半部分は確か前回同じようであったと記憶をしております。修繕にあたってはやっぱり本年度も計画がございます。どうしても計画的に修繕、改修していかなければいけないということですが、なかなかこういう音楽機器、附属設備について、どこまで専門的な立場、音楽を録音した後のノイズキャンセラーが必要になってまいります。そういったことをどこまで理解して、要するにこの機械も古くなったから変えますよというだけじゃない発想で設備整備をしてくれないといけないのかなというふうには思いましたので、その辺りも利用者のお声でございますとか、あるいは専門家のご意見というものを踏まえながら、これも計画的に進めていかなければいけないと思いますけども、ぜひとも、今の副会長の意見を確保いただければと思います。よろしく願いいたします。

委員、よろしいですか。

○委員

失礼いたします。20番、4ページですね。

歴史ガイドクラブによるまち歩き、頑張ってくださいってるのをよく知ってるんですけども、歴史ガイドクラブの方が案内をしている状況ですね。どんな説明の仕方、見てもらえるだけのレベルに達しているなど、お聞きになったことはあるでしょうか。できましたら、やはりそこら辺のレベルを上げながら、他市に負けないような歴史ガイドクラブづくり、多分大丈夫だと思うんですけど、これはお聞きしないことにはわからないものですから、今質問してるところなんですけれども。やはり市の担当者の方が見て説明の仕方などが完璧であるというところまでいったらすごくいいなと思うので、ちょっとお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか、20番の歴史ガイドクラブの内容ですとか、水準、そういったことでお答えいただければよろしく願いいたします。

○事務局

正直なところ私もちょっと、このガイドの説明をお聞きしたことはないような状況です。だから、やはりある一定のレベルっていうものはもちろん必要ではあるのかなというふうには思いますので、ちょっと今後にはなりますが、調べさせていただきたいなというふうに思っております。

○委員

調べていただいて、レベルがあがればいいですね。完璧であれば、それでいいです。よろしく願いいたします。

○事務局

先ほどの委員の質問の件なんですけれども、歴史ガイドクラブの方については、高砂学でまち歩きにご協力をいただいておりますので、私、前回高砂町を回らせていただいたんですけど、各ガイドさんが分厚いファイルをお持ちで資料が入っていて、それに基づいて説明をされていまして、一定の水準は保っていると感じております。以上です。

○会長

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

○副会長

ちょっと質問してよろしいですか。

この歴史ガイドクラブは、松陽学園から生まれたのを指しているのでしょうか。というのは、観光ビューローに観光歴史ボランティアガイドがありますので、非常に活躍していて、この「帆船みらいへ」絡みの案内を依頼してるんですけども、あそこも本当にしっかりした案内をされてるんですけどね。

○委員

歴史ガイドクラブさんは松陽学園です。唐津会長です。

○会長

はい、ありがとうございました。

○副会長

観光ビューローの観光ガイドの方とは違う唐津さんですね。

○会長

他いかがでしょうか、委員、委員、ご質問ご意見ございましたらお願いいたします。

○委員

意見じゃないんですけど、報告です。

お礼というか、高砂ロータリークラブ70周年で、佐渡裕さんに指揮をしてもらいまして、コンサートやらさせていただきました。多くの方来ていただいて、その時は誰もしゃべる人はいませんでした。それで、やっぱり皆、結構知っていたので拍手のやり方もちゃんと曲が終わってからきっちり拍手がされていました。やっぱりそれを聞きにきている人が、おしゃべりに来てるんじゃないく、ちゃんと聞きに来ている人が来たのかなと思って、先ほどの話になると思っておりました。

コンサートが終わりまして、あと、高砂南高校とか、松陽高校、白陵高校も佐渡裕さんが、

生徒たちを指導していただいて、その生徒は非常に感銘を受けた、楽しかったということを書いていたので、少し文化ということで高砂ロータリークラブも寄与できたのかなとふうに思っております。いろいろありがとうございました。

○副会長

商工会議所さんが力を入れていた高砂高校のジャズバンドが今日、神戸新聞の全圏版で大きく載ってました。

○委員

それは素晴らしいですね。

○会長

ありがとうございました。

委員もしご質問ご意見ありましたらお願いいたします。

○委員

特にということではないんですけど、常々文化っていうのは、啓発が本当に難しいなというのを感じています。7月の市民との市長交流会のときでも、何か啓発を、高砂市が他市に向けて他市から高砂というのを見返すような形をとっていくと、市民もまた改めて逆輸入じゃないですけども、そういう形になるんじゃないかなというようなことを市長に話させていただいたことがございます。

私ども高砂市民としては無理な話ですけど、どこかでまとまってるような土地がないので、例えば高砂市教育センターは、センターでありながら、島のグラウンドといいますか、北側に小さくあって、そこでこの資料で見ますと101番の方で、高齢者大学、本当にこの作品展とか11月ごろにいつも発表され、そこで教育センターの二階三階の作品を出されておるわけですけど、見させていただいてコロナの関係で発表はできなかったが作品展はできましたというようなところで、素人ながら素晴らしい作品が多いなというのが感じられました。これを果たしてどこまでの人が、高砂市民が関心を持ってるのか、持たなければならないとは思いますが、そういったいろんな方が高砂市民の中でも、技術を持っておられたり芸術関係の方の高い技術を持たれる方がたくさんおられるんだなというのを感じながら、私も見させていただいているのですけれど、そういうところがどこまでの市民に伝わってるのか、他市に伝わってるのかというところが、本当に啓発は難しいなと思いつつ、常に関わっているところでございます。先ほど委員の皆さんのお話を聞いてると、そんなことがあるのかとか、まだまだ私もアンテナが低いところなので、もう今ますます高砂市を、ちっぽけなっていうか8万5000程度の人口ですけども、本当に歴史も調べれば調べるほどなるほどというようなところもあって、高砂町も大きく、工楽松右衛門とかいろいろな文化がある。市の池も見直し案があって、動き出しているところは感じるんですが、それを、どう広げていくかというところが事務局としては難しいですし、市民としてもまた考えていかなければならないです。

この間、自治会役員会したんですけどね。今放送が夏時間で2時30分と、18時に市歌が流れています。もちろん市長とのミーティングの時に、あの曲何とかならんのかという苦情もあったそうです。うるさいというような意見があったんですけども、役員の方にお話すると、18時が高砂市歌なんですよ。あの曲、ご存知ですかと役員に聞いてみると、きよんととして、いや実は市歌なんです。私も昔教育の現場にいましたので、20年ほど前ですかね、高砂市陸上競技大会とか、高砂市連合音楽会とか、そういうところでは必ず市歌を流しておりました。市歌の練習もして、そこに5・6年生、高学年が参加していたんですが、そういうところが今、消えてしまっているというのは、非常に市民でありながら寂しいと思いましたので、こういうところも、高砂市民だという自覚とか、そういうところを高めていけたらいいのかなと思います。だから、私は高砂を誇りたいと思っておりますので、それをますます、私も発信していけたらなと思っております。

○委員

それに関しては、子供の声で市歌を歌っていただいいてそういうのを流すと、絶対これは全市民の皆さんが気づかれますし、すぐ横へ広がっていくと思いますが、そういう考えはおありでしょうか。

○会長

まず整理させていただいて、委員からご指摘があったのは、情報発信のことで情報発信については令和5年度の事業計画で情報発信の方法も書いておりますので、またそこでご意見を賜りたいと思っております。

市歌については先ほど委員がおっしゃった、もうちょっと工夫がいるんじゃないかということで、委員お願いいたします。

○委員

市歌につきましては以前にお話しさせてもらったことがあるんですけど、それこそ我々がするコンサートで市歌を歌ったことがあるんですね。そうしたら、やはり今40才ぐらいの方でも、連合音楽会があったときに市歌を歌ったとか、懐かしいと言って、曲はいいですけど、やっぱり歌詞がもう現代には合わない。それこそ、歌詞を募集していただきメロディーがとても生き生きしていいので、何かちょっと歌詞をそれこそ小さい子に歌ってもらって、流せるようなそういう取り組みをぜひしていただきたいんです。

それこそ文化連盟の方で、ロゴマークについては一般公募しまして、すてきなロゴマークができたんですけど、市歌についてもぜひとも公募していただいて、未来に繋がるようなものにしていただけたら嬉しいなというふうに思うんです。

私事ですけども、今、夫が、北浜町の自治会の会長をさせていただいていて、この度も夏祭りをお寺でしたんですけど、もう本当に地元の皆様、汗だくになりながら準備をされて、たくさんの子供さんご家庭の方来ていただいたんですね。

演奏をご住職とお仲間の方が雅楽をされていて、雅楽本来の曲と、それから馴染みのある曲も演奏されて我々も演奏させていただいたんですが、もう本当に、スーパーボールとか、そういう楽しみいいんだけど、座って聞ける子供がいなかったんですよ。数人ご年配の方が座ってくださっていましたが、親子それぞれわあわあ言いながら楽しむ。以前からちょっとは耳に挟んでいたものですけど祭りすごく盛んな地域ですよ。子供たちに対して結構何千円も祭りのときはお金を渡してゲームをさせたり物を買わせたりする地域だということを聞いていたんですけど、そっちの方に盛り上がるんですね。

それで、小さいときからいい音楽に触れさせる、殊更に構えてじゃなく、子供の方の文化で言うと、わらべうたとか何かを大人が決めてしまってる、子供に与えるもの、子供の遊び、そういうのも大人が決めてしまってるように思うんですね。

今ロシアもものすごく悲しい状態、残念な状態にありますけど、サンクトペテルブルクに行った時エルミタージュ美術館に小さな子供たちが団体で来てたんですが、みんな静かに見ているんです。ここにそんな美術館はありませんが、小さいときからクラシックは難しいとか、こんなん与えてもわからへんじゃなく、20ページ見ておりましたら、103、幼児保育課で、県民交流広場での作品展示がありますね。園児の製作した作品や絵を展示するということで、評価説明のところに身近なコミュニティ施設を発表の場として活用し、園児たちに芸術作品の創造と発表する機会を提供できたとあります。

以前、文化連盟の理事会に、教育委員会の方が来られて、地域の方とそれから子供たち学生たちの交流ということでの地域の方のご協力をお願いされにこられました。もちろん、もう皆さん、いろんな踊りとかそれから太鼓とかそれから俳句とかが長けた方が集まっているんですけどね。本当に市民の子供たちを育てたいと思ってらっしゃる方たくさんあるんですね。だけどそこにどのぐらいの予算を充てて頑張っているのか、ボランティアっていい言葉だと思うんですけど、継続してやっていくということはやっぱり大事だと思うんですよ。そこにはやっぱり予算をつけていただかないといけないと思います。だからその辺りもちょっとご説明いただきたいんですけどね。どういう形で市民と、学校あるいは子供たち、これから育てていくにあたってのお考えをお伺いしたいと思うんです。

○会長

まず市歌についてはご提案ということで、市歌を親しみのあるものにしようという観点から、複数のご提案をいただきましたので、それについてまた議論の中で確認をしていただきたいと思います。特に市歌を現代風の歌詞にしてほしいとか、なかなか興味深いご意見を賜りましたし、非常に参考になると思います。

それから2点目委員がおっしゃった、地元あるいは町地域で行われている様々な文化活動について、どのようにとらえたらいいか。境内行われた雅楽の話がありましたけども、そういったものをどういうふうに市の施策として考えればいいのか。

それからもう1点が、これ教育に関わる話なんですけど、子供の文化振興、新しい方針もあるんですけど、そういったことについて、具体的に予算も含めてどういうふうな方針があるのかということによろしいです。

特に後半二つですね、町地域における文化活動をどのように市として位置づけるのか。それから、2点目の幼稚園も含め、児童生徒の文化活動に地域の方々がいろいろといただいているわけですけど、その予算も含めた政策はどうかということと、お答えいただければ助かります。よろしく願いいたします。

○事務局

事務局でございます。町地域における文化活動についてですけれども、やっぱりコロナもありまして、なかなか文化をされておられる方の発表の場が少なくなっているということも感じております。先ほど副会長からもお話がありましたように、市役所の分庁舎の多目的スペース等を活用した形で、いろんな発表の場として活用いただければと思っております。

○会長

よろしいですか、まずは、先ほどおっしゃった自治会とかレベルの活動されてる部分については、なかなか行政でも把握はできていない。予算は出てるのは、地域振興課かもしれませんが、そういったところで、実際どういう活動があったのかは後で見るとわかるかもしれませんが、少なくとも行政施策を文化の軸でみたらどうなるのかという意味でいくと、先ほど委員がおっしゃった、自治会での活動で雅楽をされているというのは、あちこちでも本当にあるのであれば、いわゆる文化の底力というふうにも感じました。やっぱりある程度把握をしていき、おそらくそれは多分、自治会に対する助成という形になって多分ひとまとめになっているからなかなかどの程度の効果があったのかとか、どの程度予算を使ったかというのはわからないかもしれませんが、重要な視点を与えていただいたなというふうに思いました。

○委員

よろしいでしょうか。委員は音楽関係の方についておっしゃったんですが、中学生の文化の展示会を見に行きました。水墨画も、高砂市内の中学校から出されていたんですが、レベルにめちゃくちゃ差があるんですよ。それで、私が思ったのは、私たち美術協会はいろんな絵画部があります、ご相談いただけたら応援に行きます。その時思ったんですが、勝手に動くのもいけないと思って、本当に水墨画の竹の描き方の間違いが多かったですね。これは学校を見ていたら、上手なところは上手、下手なところは下手でした。これは何だろうと思ったんです。ぜひぜひ、上手に美術協会の私たちがボランティアでお使いいただけたら行きますので、よろしく願います。

○会長

先ほど言った後半部分の学校における美術活動、文化活動を含めた部分になるんですが、これについては多分美術部を今、顧問の先生が担当されている。あとは西洋画の先生ですね。おっしゃったように水墨画が多分指導できないのでそういうことが起きるかもしれない。

今、昨今どの地域でも言われているのはそういうクラブ活動を、地域のそういった力を持った市民の皆様のご協力得てレベルを上げていきましょう、文化だけでなくスポーツもそうなんですけれども、そんな議論が出ています。

委員、先ほどの自治会のことで、何かもしご意見ありましたらお願いします。

○委員

補助としましては福祉の方、地域振興の方からいただいたりして各自治会の方で利用されると思うんです。私は伊保連合なんですけれども、伊保連合の中では芸能祭を2月にしようかなというようなことを今、美術展とかそういう作品じゃなく交流を深めていくというところで、今計画しておるんですが、各地区では地域の触れ合いとかそういう活動はされておると思います。その中で、歌手コンサートを開いたりしておられる地区もございます。そのあたりで、今北浜の方、羨ましいなと思いましたが、そういう意味での自治会の中でも連合の中でも、文化のコンサートとかそういう活動を広げていけたらなというのを常任理事会で、報告させていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

僕もいい言葉が思いつかなくてどうしようかなと思っていたんですけど、8ページの例のポスターのところの、評価説明です。これもすべて芸術作品の創造と発表する機会を提供できた、ということで、芸術作品という言い方がすごく気になりました。子供は本当に芸術作品を作ろうと思って作っている子はいないと思うんです。それよりも子供たちが一番望んでいるのは絵を描く楽しみとか喜び、そういうことの方が大事なので、そういう言葉で表現してあげたいと思います。例えば、これは当たっているかどうかわからないですが、創作する喜びと発表する機会を提供できたなど、創作することの喜びという、そういう表現に変えた方がいいと思います。子どもは芸術作品を作ろうと思って作っていません。

すべてが同じ表現でまとめてというのも気になりました。それぞれのその項目ならば、例えば交通安全ならば交通安全、防火なら防火に対する何か評価の言葉あつてしかなるべきじゃないかと。切り型のこういう表現でいいのかと思います。

○会長

ありがとうございます。

ちょっとこの辺りはまた各課にフィードバックをし、先ほど、最初委員からあつたように、検討ではなく、していただければと思います。本当にご指摘、おっしゃる通りだと思うんです。先ほど、いくつか他の教育と文化芸術に関わる様々なご意見を賜りました。考え方、それから予算のこと、市民との関わりといったいくつかのご質問、ご意見があつたわけですが、何かこれについてご回答いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

○事務局

幼児保育のところはわからないですが学校の方では、いくつか交流する場、市民の方にお世話になって、交流させていただいてる場はあると思います。今、地域とともにある学校づくりで、学校運営協議会でいろいろ学校の学びの場に、地域の方にどんどん入っていただいております。音楽をしてらっしゃる方には音楽の力を借りる。それから例えば、家庭科でミシンの長けた方は、地域にいっぱいいらっしゃって、学校の教師が1人でミシンを見ようと思つたら本当大変なんです。子供たちが40人いると、あつちではミシンの針が折れて、こつちでは糸が抜けて、先生先生となる。そこへ地域の方が入ってくださると、子供たちを助けてくださって授業がスムーズに前にいく。どんどん子供の周りの保障ができるというようなことがありますので、絵画の分野、音楽の分野いろんなところで、これからは地域とともに子供たちを育てていきたいと思いますというふうなことで、教育長もお願いに行かせていただいたと思うんですね。文化連盟の方にも、またお力貸してくださいということで。予算的なことですが、そういったことでお力貸してくださいということなんですけれども、まだ実際のところ実は予算は受けていません。でも今後またちょっとご相談させていただいて、何とかそういったことの報酬といえますか、お礼のようなお金、多くはないかもしれませんがそういったことがお支払いできることとかも考えていくということも今後進めていきたいと思っています。

本当にこれは難しいことだと思うんですけど、本当はボランティアというようなものの考え方でそういったこともあります。実現はなかなかハードルが高いのかもしれないですけどそういうことをやっていきたい。それから中学校の部活動ですと、これは予算を置かせていただいて、外部指導員、茶華道部の先生を地域の方に力を借りたら、外部指導員の方にはお礼を出せる、そういったようなことで予算化できてる部分もあります。できているところとできていないところはあるんですけども、本当に地域の方と一緒に今後学校っていうのは作っていかねばならないと思っていますので、そういったところで芸術も高めていくということも考えていきたいと思います。

○会長

はい、ありがとうございました。

○委員

学校のことでちょっと、米田西小学校で体育祭の時に鼓笛隊がありますね。

あれを、地域の方が反対して鼓笛隊がなくなったと、僕は子供ときから体育祭の時は鼓笛隊があったのですが。多分反対したのは1人ぐらいだと思うのですが、それでなくしていいのかなというふうに思いました。うるさいということで反対されたと思うのですが、その内容は聞いてないですが、なくなったということしか聞いてないですけど、寂しいなと思います。

○会長

もしお答えがあればお願いします。

○事務局

教育委員会としても理由は把握できていません。ただ学校の中で、各校でそういったことはやっぱり起きているのは、起きているといえますか、ずっと受け継がれてきた鼓笛隊がなくなったということが他の学校でもあるのですが、それは各学校の校長先生、地域の方、PTAの方ですとか、そこで話し合いながらされているというところで、米田西小学校についてはこうですと今お答えはできないんですけど。

○会長

今のお答えでよろしいでしょうか。では、委員お願いいたします。

○委員

先ほど委員が言われた件ですが、これ意見書に書いているのですが、多分皆さん読まれてなかったと思います。ポスターの41番から45番です。芸術作品の創造と発表する機会ということは、全部作品募集が違うのに同じことが書かれている。

ちゃんとご意見いただいているんですね、各課のいろんな意見をもらったけれども、フィードバックができていなかった。今後は未来に繋がるよう、まとめながら結果の全体条件を検討してまいりますとありましたので、私はいろいろ言わなかったんです。ちゃんと未来に向かって頑張っていくと書いてくださっているの、こういうことを期待しながら、次回はいいいことがいろいろ言葉も変えられてると思います。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

私の説明を補足いただきました。大体皆さんご意見賜ったと思います。私から最後に、これは事務局へのお願いになります。先ほど市長からありました、実はこの令和4年度をもちまして、第1次の文化振興基本方針に基づく事業は終了いたします。そこで、過去5年間です、延長していると10年間なんですけど、そこで取りまとめたいなというふうに思っています。アンケート調査等というのは、いわゆる定点調査、あるいは静態的調査っていいんですけども、単にこの年度ごとの評価とか動態調査モニタリングの対象になります。

改めて、ずっと過去どうだったんだろうというのを少し、並べてみてやはりもう少し評価

をしていかないと、先ほど申し上げましたアンケート結果を見ると、実はあまり評価が上がってないんですね。これだけやってきたから、それはやはり行政としてもこの事業を本当に継続すべきかどうかを考えると、重要な点だと思っておりますので、これはお手数おかけするんですけども、やはり10年間やっていたことの、ある種ダイナミックスというふうに思っていますので、これは直ちにというわけではありません。少し時間をかけて検討したいと思っています。

また何らかの成果が出たら皆様と共有したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

長時間になりましたけども令和4年度の事業についての協議は以上とさせていただきます。続きまして、議題の2番目です、令和5年度事業予定について資料に基づきましてご説明よろしくお願ひいたします。

○事務局

事務局でございます。

令和5年度実施計画について、主なものをご説明いたします。昨年度は委員の皆様のご協力によりまして、第2次高砂市文化振興基本方針を策定することができました。ありがとうございました。

第2次高砂市文化振興基本方針の方針理念は冊子の22ページから23ページにお示ししており、続いて24ページから25ページに4つの基本目標を記載しております。資料2の令和5年度実施計画につきましては、冊子の26ページから32ページに記載しております具体的な取り組みに基づきまして、各施策を進めてまいります。従来の実施計画一覧との変更点につきましては、一覧表の各事業名を事業番号の次にお示ししており、表の中ほどに情報発信の方法を記載する欄を追加しております。これは、第1次基本方針期間中に課題とされた、組織内連携、情報発信のあり方に対応したものでございます。また、5桁の事業番号につきましては、前から基本目標、施策、取り組みの番号を現しております。

それでは、主なものをご説明いたします。

1ページ、11101、高砂学につきましては、活動編5回、講座編2回、寺子屋編1回、謡曲編4回を実施いたします。講座編につきましては、令和6年、2024年1月に100周年を迎える水道事業に着目して、水にちなみ10月28日に「市内のため池について」、12月16日には「水道事業」について上下水道部担当職員が講座を担当いたします。

次に、2ページ、11108、市民ギャラリー「あいぼっと」の活用でございますが、分庁舎1階多目的スペースの一部を展示の場として提供するものです。

今年度から文化連盟各加盟団体に協力いただき、ホールコンサートを実施することとし、7月3日、及び8月9日に開催いたしました。次回は9月25日（月）に邦楽の演奏を予定しております。また、次年度以降については、文化連盟各加盟団体以外の方にもホールコンサートの会場として利用いただけるよう調整中でございます。

続いて新規事業の、4ページ、11123、工楽松右衛門旧宅運営管理事業につきましては、6ページ、12105、工楽松右衛門旧宅講座・体験学習事業とあわせて、松右衛門帆布を使った小物づくりや高砂染のハンカチづくりなど、地域の資源を活用したワークショップを実施するなど、高砂の歴史文化を学ぶ機会、また、来館者の増につなげることとしております。

新規事業につきましては、この2事業を含めまして28ページ、22218の新任職員研修（高砂町まち歩き）、22219、観光ボランティアガイドの育成や、41ページ、32204の移住・定住促進ガイドブックを含め、延べ12事業です。

資料を戻っていただきまして、5ページ、11205、文化会館の整備事業でございます。指定管理者による小修繕に加えて、中ホールの経年劣化したスポットライト5台の交換を予定しております。

最後に、東播磨文化団体連合会事業でございます。19ページをお願いいたします。下段の21121につきましては、11月5日（日）に高砂市文化会館じょうとんばホールにて、東はりまコーラス大会を実施予定でございます。

令和5年度実施計画については簡単ですが、説明は以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。

見方として、整理の仕方として従前は各課別だったんですが、今回はこの方針に従いまして、基本目標、施策として事業番号という形で、それぞれの基本目標があって施策1があってそれぞれの事業があります。そうしたものに沿った形で動いています。

なお先ほどもありましたように、情報発信をこれは特にシティプロモーションを進めていきたいという、市の方針もありますので非常に重視されておりますので、情報発信のあり方もすでに書かせていただいて、委員からもご意見があったところだと思います。

というところで何かご質問ご意見があれば承りたいと思います。特にまだ事業が始まってない部分もあるかもしれません。そういったものに関して、ご意見、参考に事業をより深めていきたいということでございますのでぜひともご意見を賜りたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

○副会長

質問よろしいですか。事業番と冊子との連動性をもう一度ご説明をお願いします。

○事務局

事務局でございます。冊子の方ですね26ページをお願いします。第5章の具体的な取組になります。11101の高砂文化教室「高砂学」を例にとらせていただきますと、5桁の数字のうちの前の三つ、1、1、1、に呼応するところが最初の1が、基本目標の1。中程の1が、施策の1、一番最後の1が、この①ですね、身近に鑑賞する機会の充実。こちらに施策の1番目で、続いての高齢者大学での講座というのは、基本1施策1、①の施策の2番目。こういう流れになります。

最後の010203が、それぞれの枝番になります。

○会長

よろしいですか。ありがとうございました。

見方ということで、先ほど言ったように施策ベースにまとめていますので、要は、枝番がついてるんですが、どの事業に相当するののかということはあるだろうということで、これは言わばこれそれぞれの事業が、この施策にどう影響したのかっていうことを考える運用としてわかりやすいまとめ方になってますが、番号の桁数が多いので、見にくかったかもしれません。

委員、お願いします。

○委員

その書き方にしなければならいけないのでしょうか。というのは、111-01とか。その施策目標と、その事業の番号っていう分かれ方をした方が理解しやすいなと私も見ていました。特に4年度と全然書き方が違うので、これどういうふうになったんだろうというのは、見させていただいてすごく疑問に思いました。

○事務局

ご意見頂戴いたしまして、こちらの表現の方法につきまして、また修正検討をさせていただきます。ありがとうございます。

○会長

よろしいでしょうか。

今、ここではこの番号でやりますけども、今後また委員の皆様にご理解いただきまして、それから、確かに考えてみればもしこれ事業数が増えてきたときに、枝番が桁を超えた場合困りますね。枝番をつけるやり方というのはあるだろうということでございますので、そこについては少しご検討いただくということで、よろしいでしょうか。

他何かご質問中身についてでも結構です。ご質問ご意見があればお願いいたします。

○委員

22219、28 ページ、観光ボランティアガイド育成というところなんですけど。

事務局もガイドクラブのところに一緒に高砂町を歩かれたということで、分ると思うんですけど、私も団体として、ガイドクラブさんをお願いしてガイドしてもらった時に、元ここの委員だった唐津さんに案内してもらおうと、面白くて、すごくなにか深い話になるんですね。

同じガイドクラブさんの中でも、資料をたくさん持っているんですけど、なかなかそのこっちとこっちが繋がってないというか、話の中で、1個1個の説明できても、いろんな繋がりのお話ができないところがあったりして。言い方悪いですけど、唐津さんが生きてる間に、あの人の頭の中を1回全部CDか何かに落として、それをガイドクラブの育成に使うとか、そういう予算を採って、していただきたいのはこの審議会でも私、いらっしゃるときでも何回か言わせてもらったんですけど、そういう知識を持ってる方。他のことも一緒ですけど、いろんなところで、そういう人が一生懸命やられていて、本当に頭の中にもってるものすべて。せっかくだからその人だけが持てるんじゃないじゃなくて、その人だけが発信するんじゃないじゃなくて、それをすべて公にさせていただくような予算を採って、何か文章なりCDなりを、その人にある程度委託しながらまとめて、それを使ってやるとすごくそれぞれのレベルも上がるでしょうし、いいものになると思うのでぜひやっていただきたいです。

○委員

その件に関しまして、他市が認定制度をしていましたね。それをどんなふうにされているかもぜひ参考に、もちろん唐津さんの件についても委員が言われたように取り入れていただきたいし、いろんなところを検討しながらどれが一番いいかということ、見られてはいかがでしょうか。

○会長

ありがとうございました。

今のボランティアガイドのことについて委員がおっしゃった、いわゆる残し方ですね、こういう残し方というのは、先ほど今最近だとかこういういわゆる記録機器、録画機器を使うということもありますし、また委員がおっしゃった口伝ですね、あと例えば唐津さんが指導された方が、次のマイスターみたいな形になって、マイスターとして継続し、そのマイスターの承認をしていくというのも方法だろうということです。いずれにしても、今のボランティアベースでは限界があるということについては多分共通するところで、つまりボランティアだと確かにそのボランティアの人が次に繋がるというのは、やっぱり志も一緒になっていないといけないので、そういう方を見つけて伝えてくるといいですが、なかなか難しいかもしれません。

それを制度的にやっていこうと思えば、委員がおっしゃったような、いわゆるマニュアル化をしていく、機材化していく。それから、委員のおっしゃった、マイスター化していく、ちゃんと認証していくということです。こういった、そのボランティアで行ってることの限界点のようなことを、多分今おっしゃってるんだらうというふうに思います。

少し調べていただいて、今、次年度の予算をそろそろ考えなければならぬ時期ですので、委員がおっしゃったのは、姫路認証制度があるということだったので、そういったものも調べていただいて、何か施策に結びつけていただければと思います。

いずれにしてもボランティアの限界だということを私は、委員のお話を聞いて感じました。

ありがとうございました。他いかがでしょうか。委員お願いします。

○委員

ちょっと今の話と違うかもしれませんが、コンサートも大阪や神戸からも来てくださったりするんですね。会場に、市が作ってらっしゃるのか、工楽松右衛門とか、まち歩きガイド、地図になったやつを会場に置いたり、それから、事前にその人たちに郵送で送ったりすると、早めに来て散策してくださって非常に喜んでくださるんですね。ですから、本当に宣伝の仕方なり、私は本当にまだ高砂に長年住んでも知らないことがいっぱいあって、普段出かけることがないので、いろんな機会に歴史のガイドをなさっている方だけじゃなく、私たちなんかも本当にコンサートの折に来ていただいて本当に喜んでくださっているの、そういう感じのスピー

ルもどんどんしていきたいなと思っております。

○会長

ありがとうございます。

まち歩きを目的としなくても、この町に来れば、誰かがガイドくれるというのは非常にそういう意味では、観光開発にも役立つご意見かなと思います。他いかがでしょうか。

○副会長

市に要望ではあるんですけど、せっかく素晴らしい冊子ができているのでいろんな機会を見つけて説明していただきたいと思います。実は、ニコニコ会という高砂学の講師のOBに、これを説明させてもらったんです。ぜひ市の方で、いろんな機会を通して、これを利用しながら説明をしていただけたらなと思います。

○会長

ありがとうございました。

○委員

子供の古典芸能狂言を体験するという、やっていただいているんですけど、今回も29ページには、14回というふうにありますけれど、これはどういうふうに結びついて、もう何年もされてると思うんですけどもどういう風に発展しているのですか。高砂神社で毎年観月能をされていますけれども、お値段するんですけど、本当に一流の能楽師の方が来てくださって、子供たちと舞台に立たせていただいてありがたい機会だなと思っているんです。

それだけで、そこだけで終わってしまってるのか、この後どうなっているのかと思いますが、いかがでしょうか。

○会長

高砂こども狂言ワークショップですね、14回やるとかどういう成果があった、着地点だったか、あるいはこれ14回ってこれ目標でまだ途中かもしれないんですけども継続性、いかがでしょうか。

○事務局

今年度につきましては年に2期に分けて、前半6月、後半が年明けという形で各こども園等を回らせていただいています。そこで狂言を見ていただいて、家に帰ってから資料を持って帰って、話をさせていただいたりしております。もう子供さん含めまして楽しみにはしていただいています。ただ、おっしゃられた継続性というところについては、また今後の検討というところです。

○委員

さまざまな事業を通して高砂から育てて欲しいなと思います。

○会長

要は、継続するにあたって、特に文化振興というのは本当に意識しないと消えてしまうので、そういう意味では、やはり成果を常に表示して、続けていただかないといけません。

○委員

これは高砂神社に出演する子たちじゃないですね。

○事務局

はい。

○委員

高砂神社は、子供たちも一緒に舞台に乗せて頑張っていらっしゃるけれど、なかなかチケットをさばくのが大変。継続してるのは大変な状況というのを聞きますしね。子供たちでせっかくやったことを演じられる舞台をつくるのは大変だと思うんですが、何かそういう結果が、成果が出てくるとうれしいと思います。

○会長

ありがとうございました。

今日はまだ評価ではないので、次年度の評価にあたっては、先ほど委員がおっしゃったところを必ず入れてくださるようにまたフィードバックをお願いしたいと思います。

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○副会長

高砂市の職員の皆様も大変だと思うのですが、土日に関係ないイベントをやる機会が多く、個人的にはやはりのぞき来てもらったり、現場の体験を大事にしてもらって、現場の雰囲気を知ってもらいことも必要かなと思いますので、またよろしくをお願いします。

○会長

そうですね、なかなか難しいことがあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

○委員

冊子の方なんですが、施策4に謡曲高砂が入っていますよね。この謡曲高砂を柱にした理由です。

2点目は、基本目標の2の28ページ以降のところ、成果指標というのがそれぞれありますが、令和3年度のパーセントから令和9年度の目標パーセントの根拠ですね、例えば28ページの施策2の方でしたら、令和3年度は1%で、令和5年度は5%。こういうパーセントを目標にした根拠を教えてくださいたいと思います。

○会長

先ほど副会長おっしゃったこの計画を説明する機会というのがありましたが、まさにそういったことを説明しなければいけないと思いますので、今2点、謡曲高砂を柱にした理由、成果指標の根拠ですね。先に謡曲高砂の理由ですけれど、実は第1次の文化振興基本計画時からずっとこれを継続しています。やはり高砂市のアイデンティティといいますか、やはりどんなところでも必ず出てくるんですが、そうしたものを統一しておいて皆さんに認識していただいて、市に対する愛着やプライド、シビックプライドと言いますが、こういうことを醸成したいという一つの一環として、この謡曲高砂を挙げています。これについてはいろんな議論もあった上でこれを共通してあげてるといってご理解ください。

2点目の数値については、全部個々で説明は難しいと思うんですが、例えば、一つはアンケート調査なので、1回目のアンケートに2回目のアンケートが比較して、定点調査の結果などを踏まえて数字を挙げているのですが、何か特に具体的なものはありますか。

○事務局

令和3年度につきましては第2次の基本方針を策定するに当たりまして、事前にアンケート調査を実施させていただきました。その中では第2の方針もですが、方針の期間が10年間で中間見直しをこの年で行うということで、その令和3年度のアンケートをとった時点から、どのように施策を考えていくかというところで、令和9年度の数字を示させていただいています。

今日の審議会の議論でもあったように、第1次の当初からずっとまだまだ浸透がされていないというところがありますので、令和9年度の第2次の方針の中間見直しまで、少しずつ数字を上げていくような形です。27ページの基本目標の施策4の謡曲高砂に触れる機会の充実という

ところで、謡曲の数字が令和3年度で1.2%、まだまだ知られていないというところもありますので、令和9年度につきましては高砂学や狂言ワークショップも含めて、謡曲に触れていただく機会をいろんな年代の市民の方に提供していくという形で計画を立てております。

○委員

一つ目の謡曲高砂とこの目標を見て、それで施策を謡曲高砂にしたのはなぜですかという質問をしたんですよ。なぜかという、自慢したいのが謡曲で令和3年度が1.2%、令和9年度で5%ですよ。施策にまで挙げている謡曲が、令和9年度で5%というのは、どうしてだろうとやっぱり思ってしまうんですね。令和3年度が1.2%であったとしても、施策の4に挙げている限りは、5%は寂しいすぎますよね。それで、根拠は何ですかと質問しました。施策に挙げておきながら、5%というのはいりえないと私は思います。これは無理やり50%とか、そういうことは言っていないですよ。この5%は計算式があるのですか、それとも予想で期待しているパーセントですか。

○会長

どういうふう目標を立てるかというのは、計画論でいろいろあるんですね。一つは、外装法と言って、過去トレンドを伸ばして行ってこれくらいになるだろうというものです。それともう一つは、マイルストーンという、他のところを例えば、他の自治体で同じようなケースがあった時に大体どれくらいなのかを比較するということです。あとは政策的にパーセンテージを置くというのがあります。

高砂市の場合は、やはり外装法ですが、先ほどアンケートの回数が少ないものですから、外装的には難しく、さらにマイルストーンだと他の自治体の大体どれくらいかなとか、大体妥当な範囲ですね。特に誇りに思うことは、ばらせるんです、例えばこのアンケートの中でも、高砂市にとって自慢したいことは何ですかという調査があるんですけど、それを見ていただいても本当にばらせるんですね。

そうすると大体20分の1ぐらいなので、そういうものを状況から踏まえて5%というところでございます。ですから、特に計算式があるわけではなく、他のアンケート調査の結果などから、20分の1というのは妥当ではないかというところから挙げた数字です。おっしゃっていただいたように、大きな柱としておいて5%は寂しいよね。確かにおっしゃる通りですし、また委員おっしゃった、だからといって50%は難しいことはわかっているということで、ご了解いただいとこだと思うんですけど、そうした根拠をもって5%上げたというふうにご理解いただければと思います。

○委員

高砂市で結婚された方にCDあげられますでしょう。あれは、あげっ放しなんですね。だから、あげた方に、謡曲高砂を習いたいという方には教えます、それぐらいの心意気でやってもいいかなと思います。やはり今のままで話を伺っているとそういうことも必要なと。結構あのCDの数多かったですよ、やはりそういうところからやっていくということも必要なというのは思います。

○委員

ちょっと基本的なことですけど、この謡曲高砂の取り組みはどこまで、どう発展していくのですか。これも前にも言わせていただいたと思うんですが、僕は、市外にいったとき、どこからこられましたかと聞かれたときに、謡曲高砂の地の高砂から来ましたというふうに言ってるんです。ただ謡曲高砂を覚える、浸透させていくだけでいいのかなというのは、ずっと疑問に思ってるんです。さっき委員がおっしゃったことも狂言のこととも関係があります。謡曲高砂から始まって、謡曲全般にずっと広がっていかないと、本当の取り組みじゃないのかなと思います。非常に失礼な言い方をさせていただいたら、市民、町民が全部、謡曲高砂を謡えてそれでどうなのか。そうじゃなく、謡曲高砂を通して謡曲の世界、狂言の世界、そういうところまで広がっていかないと、本当の文化は広がっていかないじゃないですか。みんながみんな謡曲高砂を謡えても、それがどうなのかとっているんです。

高砂神社には立派な能舞台ができました。だから、私の理想としては、高砂神社の能舞台で謡ってみたい、謡曲やってみたい、能をやってみたい、みんながそう思うぐらいのものに持っていかない、うそじゃないかなというふうに私はこの謡曲高砂の取り組みのお話を聞くたびに思っていますがいかがでしょうか。

○委員

それこそ、淡路島の人形浄瑠璃も保存とか維持が非常に難しいというのは聞いています。後継者については、私も謡曲高砂を謡うだけじゃなく、やっぱりその能の先生から言われてると、謡曲高砂の部分だけが能じゃないというか、私も拝見させていただいた蜘蛛の糸なんか、ものすごく面白かったしドラマチックだし、劇的だなと、あんな小さなスペースの中で、ものすごいドラマが展開されて、面白いものを日本人は育ててきたというふうに思うんです。

やっぱり、高砂であるということに非常に自負をすることであります。だから、謡うだけじゃなく、やっぱり能とか狂言という日本の芸術的な文化を体験とか知ろうとするとか、それを見て面白くと思えるとか、そういう人間づくり、人材を育てていくというところを目標に置いてほしいんですね。

○委員

淡路は人形浄瑠璃を見せる場所があります。高砂ないんですね。だから、やっぱり今委員がおっしゃった場所的なことがあると思います。両方を実際にその見せる場所なんですね。

○委員

実際問題、子供たち忙しいですし、教育現場の先生方も非常に忙しいと思います。だから、謡曲を流すことは手っ取り早いですけど、やっぱりもう一步踏み込んで、どうせするんだったら長いスパンで育てていく。子供たちが年を経ていって、高砂という土地に生まれてよかったなと思えるような、本当に能とか見た時に感動する、そういう人材づくりができるといいと思います。

○委員

今の謡曲高砂の取り組み、確かにいいとは思いますが、そこで止まってしまいそうなんです。そこから先の発展がないように思いますので、発言をさせてもらったわけです。

○会長

ありがとうございます。委員、どうぞ。

○委員

謡曲高砂というのは、第1次の時は確か謡曲高砂をシンボルとしてという形で書かれていました。今回入っている中でですけど、確認したら謡曲高砂、こういうのはシンボルとしてというのは、そのまま第二次の方も続きますと言われていたのですが書いてないので、シンボルとしてというのは抜けてるなと思ったんですが、シンボルとしてということなので、謡曲高砂を謡うとかじゃなく謡曲高砂の精神というか、和合長寿とか、そういうところを切り口として、例えばライダル都市高砂というのも出てきましたけど、私はそこから縁を結ぶ町だな、と思って、個人と個人、国と国、都市と都市ということで、つなげていく町が高砂なので、今こそ、ロシアが戦争してますが、そうではなく、高砂から発信して本当に縁を結ぶ都市になってほしいというような、高砂が発信してほしいなと思っているんです。そういう町であるし、高砂という言葉自体が1番目めでたい都市なので、歴史で言うと、京都や奈良とかいろんな文化遺産あってそれにはかないませんが、高砂という言葉自体が唯一無二なので、その精神を謡曲高砂という言葉の普及というか、謡曲高砂をうまくなくとかじゃなく謡曲高砂の精神というか、それを分解した内容を高砂の中でもっともっと発信してほしいと思います。

○会長

まず、委員がおっしゃった到達点は何ですかという話ですけれど、今これだけ議論が出てくるといっても、一つは謡曲高砂があるからだと思うんですね。おっしゃっていただいた、謡曲高砂をもっと深めていって能の舞台や日本文化の心髄の方に近づいていく、これも一つの到達点でしょう。

それから、委員がおっしゃったように、シンボライズされた和合長寿といったところから、もっと高砂を発信していきましようということも一つの到達点で、だからある意味謡曲高砂をもっとこの考えからある程度基盤とすることで、いろんな可能性あるということなので、委員の最初のご質問に対する答えを皆さん今それぞれ言っていただいたというふうに私の方は思っています。

まさにそこをどんどん発展させていければと思いますし、そうすれば5%超えませんかね、というふうに思っています。

今このわずか15分くらいの短い時間でこれだけ盛り上がったので、是非ともこういった機会がもっと日々一般に広がれば5%を超えらると思いますので、そういうことも今日の議論、私面白かったなとお聞かせいただきました。本当に、高砂だからこそこれがいえる議論です、他の都市ではなかなかこんな話出ませんので、そういう意味ではすばらしいご意見いただきました。

○委員

高砂のこのアンケートの内容は、もう変えられませんか。市の自慢したいものは謡曲という聞き方をすると、他にも自慢したいことがあると思います。知っていますかとか、親しんでいますかとか、そういうような言い方だと、この令和3年度が自慢したいものが1.2%、私はもっとこっちが自慢したいと思っている人もたくさんいると思います。

今、謡曲高砂、小中学校はもう知ってますよね、もちろん普及できていますし、いろんなところでも謡曲高砂を謡っていることもあって、知名度というのは以前、もう20年前は広がっていると思うんです。ただ、自慢となったときに、例えば私はぼっくりんとか。よく聞かれるんですよ、これ何ですかと。高砂の松だと説明しますけれど。

○会長

アンケートについて、これは平成27年に行ったアンケートで比較のために同じような書き方をしています。ただおっしゃっていただいたように今後また定点調査をやらないといけませんので、その際にはまた考えたいと思います。

○委員

謡曲高砂について商工会議所も大分したんですが、そもそもの目的は謡曲高砂を市民の2人に1人が謡えるようになったら、高砂という町がもっと広がるんじゃないかと。なので、この中で謡うんじゃないかと、実は私1回、銀座のクラブで謡曲高砂を謡ったことがあって、すると、ものすごい文化人だなと言われたことがありました。できたら、2人に1人が謡えるようになって、外で謡ってもらったら高砂というまちが少しでも広がるかなというのが、商工会議所の考え方でした。これからも頑張っていきます。

○会長

いずれにしても本当にこういった議論ができたのは、大変非常にありがたい話で、それもまた謡曲高砂だからこそだということでご理解いただいて、またアンケート調査につきましては、定点調査はまだしていかないとはいけません、委員のご意見などを参考にさせていただきたいと思います。

時間オーバーしておりますが、何かこれだけはということがありましたらお願いいたします。

○委員

最近、国際交流協会の方にお邪魔したりしていますが、非常に頑張ってらっしゃるので、それがあまりご存知なのかかわからないですけれど、それこそ太鼓の方も紹介して、外国の来日の方に体験していただいたりとか日本語の教師のサポーター始められてるんですけれど、そこでも非常に明るく、海外の方、在日の方、参加されていますし、そのサポーターになりたいとい

う人たちも参加されています。

国際的という、ラトローブ市ばかりで、英語を使わない国の人達も増えてきているという現状もあったりして、国際交流協会の方々非常に頑張っていると思いますので、そのあたりでも謡曲高砂ですが国際的な動きとしても関心を持っていただけたらうれしいなと思っております。

○会長

いろいろと長時間にわたりまして、たくさんのご意見を賜りありがとうございました。

令和5年度事業につきましては、今日いただいたご意見を参考できるところは参考にして事業を推進していただきたいと思っておりますし6年度の事業予算を考えなければいけないですね。今日例えば市歌の歌詞の問題ですとか、ボランティアの限界のようなところの予算を考えないといけないんじゃないかとか、それから教育に関しても市民と文化活動と学校との関係を、いわゆる協議会方式における市民参加のもう少し具体的なところというのは、本当に来年度事業にあたって参考になるところをたくさんいただいたと思っております。改めまして皆さん方のご意見に感謝申し上げたいと思っております。

それでは最後の内容でございます。事務局から議題の4その他について、今後のスケジュールのご説明をお願いしたいと思います。

○事務局

今後のスケジュールにつきましてご説明をさせていただきます。現在の委員の方につきましては、令和5年9月末をもって終了いたします。皆様には、第1次高砂市文化振興基本方針における実施計画のご審議、新型コロナウイルス感染症への対応、第2次高砂市文化振興基本方針の策定と、答申、様々な議題に関して、熱心にご審議いただき、本当にありがとうございました。

次回、今年度の第2回文化振興審議会につきましては、新たに委嘱をさせていただきます委員の皆様で、令和6年度の事業、令和5年度の実施計画の進捗管理等につきまして、ご意見をちょうだいしたいと思います。以上でございます。

○会長

先ほどもうご挨拶しましたけども、本当にありがとうございました。

皆様、貴重なご意見をいただきまして感謝いたします。引き続き、文化振興に当たりましては、個人、団体の代表の方もおられますので改めてお願いしたいと思います。

そうしましたら、議題はこれで終わらせていただきまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。

○司会

本日は、大変熱心なご審議を賜りありがとうございました。閉会に当たりまして、副会長からご挨拶をお願いします。

○副会長

みなさん、長時間どうもありがとうございました。

愛は地球を救う24時間番組で、ウクライナの少女が防空壕でレットイトゴーをウクライナ語で歌って、素晴らしかったです。ネットですごく反響があって、それを日本の番組でプロデュースするというので、実際、芸術文化は国境を超えるということを感じました。そういうことも含めて、私も高砂市歌何回も歌ったのですが、あの歌詞ではね。わがまち高砂という愛称があるんですね。何とかこの70周年を記念して市歌を募集していただけたらと思います。

本当に熱心な審議ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。それではこれにて閉会いたします。